

シンポジウム「80年代におけるアヴァンギャルド系現代美術 画廊パレルゴンの活動を焦点として 」関連年表

	美術(展覧会)	美術(出来事、他)	言説	社会・政治・経済
1975	1 アート・ナウ'75(兵庫県立近代美術館) 12 今日の動物展(横浜市民ギャラリー) 第11回今日の作家展、選考委員:中原佑介 9 [海外] 第9回(パリ)青年ビエンナーレ コミッショナー: 峯村敏明、出品作家: 田窪政治、彦坂尚嘉ほか	1 神奈川県民ホールギャラリー開館 4 佐科室 武蔵野美術大学助教に就任 9 東京都美術館新館開館 12 監査館開館 5 [海外] フランク・ステラ、(ブラジル) シリーズ発表	1975 2 '展評: (田村画廊) 創刊 3 宮川淳 '引揚の騒動: (筑摩書房) 10 'エビテメー、(朝日出版社) 創刊 ジャック・デリダ '高橋允昭訳『パレルゴン』掲載 以後、同誌に中途まで掲載連載、後に高橋允昭、阿部宏毅訳『絵画における真理』(法政大学出版局、1997年)に改訳再収	3 東海道・山陽新幹線、博多までの全線開通 4 ベトナム戦争(インドシナ半島戦争)終結 7 沖縄海洋博覧会開催 テーマ: '海、その望ましい未来、
1976	2 1976京都ビエンナーレ7名の評論家による現代作家展(京都市美術館) 平野豊光、峯村敏明、乾由明、高橋孝、たにあらた、中原佑介、早見堯の7人の批評家が34人の作家を選出 6 アメリカ美術の30年、新しい世の伝説(西武美術館) ミニマル・アートまでを紹介 11 今日の空間展(横浜市民ギャラリー) 第12回今日の作家展 企画: アーティストユニオン	4 NETテレビ番組「アート・レポート」放映 企画・構成: 峯村敏明	1976 2 マルスラン・ブレーネ / 岩崎力訳『絵画の教え』(朝日出版社) <i>Marcuslin Brene et, Enseignement de la Peinture, 1971</i> '展評: 2月号 宇佐美圭司 '芸術家の消滅、掲載 9 '写真効果magazine、創刊 編集: 石内都ほか	9 毛沢東死去 10 家庭用VHSビデオ発売(ビクター) 12 空芝河(梅崎 詩人)に10年の恩役再掲
1977	5 TOKYO GEJITSU 4(田村画廊) 出品作家: 田窪政治、高見沢文雄、彦坂尚嘉、堀浩哉 7 ant today '77 見えることの構造(西武美術館) 企画: 東野芳明 出品作家: 宇佐美圭司、河口雅夫、島村一ほか 8 監査現代美術の扉面(東京セントラル美術館) 10 第13回今日の作家展: 絵画の置き(横浜市民ギャラリー) 企画: 峯村敏明 出品作家: 清水誠一、柴田雅子、諏訪直樹ほか 6 [海外] ドクメンタ6(カッセル) 出品作家: 荒川修作、河原温、高松次郎、アンゼルム・キーファー、ゲオルク・バゼリッツ、A. R. ペンクほか 7 ミュンスター彫刻プロジェクト(ミュンスター) 10年に一度開催される野外彫刻展の第1回目	1 イメージフォーラム開設 東京芸術大学、大学院博士課程を新設 4 山梨県がシラーの『鐘ま(人)』夕暮れに羊を連れ帰る羊飼いを購入 7 東京国立近代美術館でアメリカから永久貸与の形で返還されていた戦争画を分割展示 10 国立国際美術館開館 高川淳死去 11 キヤラリー手開廊 この年、コバヤシ画廊開廊 11月に宇佐美圭司、柏原えつむ、島村一の3人展を行う	1977 4 '美術手帖: 4月号 '絵画の平面と平面の絵画、 平野豊光、中原佑介、峯村敏明、藤枝英雄、たにあらたによる誌上シンポジウムを掲載 6 藤枝英雄 '現代美術の展覧、(美術出版社) 10 '美術手帖: 10月号 '現代美術の形式と形態: ドクメンタ6に見る、	7 ニューヨーク大停電 9 日本赤軍によるゲッカ日航機ハイジャック事件 12 チャールズ・チャップリン死去
1978	5 国際ビデオ・アート展(毎月会館) 8 彫形と現象(村松画廊) 企画: 多木浩二、彦坂尚嘉 11 第14回今日の作家展: 表現を仕組む 企画: 岡田隆彦企画 出品作家: 榎倉康二、菅木志雄、田窪政治ほか 12 [海外] ニュー・イメージ・ペインティング(ホイットニー美術館)	4 李禹煥、多摩美術大学助教授に就任 8 日本グラフィック・デザイナー協会(JAAGD)発足 9 佐倉画廊開廊 この年、彦坂尚嘉がBゼミのレギュラー講師に就任 日本初のコンクリート・ギャラリー(ニュー・アート・サロ)開廊 1 [海外] メアリー・ブーン画廊開廊(ニューヨーク)	1978 2 '美術手帖: 2月号 '絵画と平面の相克、 藤枝英雄、李禹煥、山田正亮による座談会 '絵画自身へ向かって、 5 '美術手帖: 5月号 '模索から展開へ、 6 'みづゑ: 6月号 早見堯対談 '現代との対話、連載開始 8 'カエ: 6月号 '80年代芸術へ向けて、 宇佐美圭司、岡田隆彦ほか '展評: (筑摩書房) 休刊 9 '現代彫刻: 9月号 峯村敏明 '現代彫刻を考える、連載開始 10 チャールズ・ジェクス / 竹山実訳 'ポストモダニズムの建築言語: ('a+u: 10月号臨時増刊号掲載) 11 アンリ・マ蒂斯著、ドミニック・フルカド編 / 二見史郎訳 '画家のノート: ('みすず書房) <i>Henri Matisse, Dominique Foucaud, Ecrits et prepos sur l'art, 1972</i>	5 成田国際空港開港 6 映画『スター・ウォーズ』日本公開 8 日中平和友好条約調印(北京) 9 東芝初の日本語ワープロ発売
1979	3 ant today '79、木との対話(西武美術館) 企画: 中原佑介 出品作家: 轟上寿之、小清水漸、彦坂尚嘉 8 7人の作家 / 韓国と日本(真木、駒井画廊) 韓国と日本の作家の共同企画展 11 第15回今日の作家展: 横浜 '79(横浜市民ギャラリー) 企画: 島村一、高山登、東野芳明、真板雅文	3 駒井画廊開廊 4 京都精華大学美術学部開設 峯村敏明、多摩美術大学助教授に就任 5 板橋区立美術館開館 23区内で初めての区立美術館 7 山口修造死去 11 南画廊開廊 12 原美術館開館 この年、Gアートギャラリー開廊	1979 1 第8回美術手帖芸術評論、秋田由利 '美術における絵画と自由: 構造主義以降の地平から、 西嶋憲生 '時代、仕事、アイデンティティ: デラシネからの再生のために、 イラト・レーショ、(玄光社) 創刊 3 針生一郎 '戦後美術論喪失記(東京書籍) 6 藤枝英雄 'ジャクソン・ポロック、(美術出版社) 7 '象、創刊 企画: 編集: 伊藤博史、海老塚純一、北澤憲昭、山本糾、吉田秀樹、和田守弘ほか 中原佑介 '現代芸術入門、(美術出版社) 9 'みづゑ: 9月号 藤枝英雄対談 '現代との対話、 ;連載開始 10 '夜想: (ベネトル工房) 創刊 11 藤倉重郎 '映画批評宣言、(筑摩書房)	2 イラン革命、第二次石油ショック 3 イスラエル・エジプト平和条約調印 スリーマイル島原子力発電所事故(アメリカ) 6 東京サミット開催 7 ソニー・ウォークマン発売 12 ソ連がアフガニスタンに介入
1980	1 UENO '80(東京芸科大学会館)、東京芸大学生有志による自主企画展、2ヶ月半にわたって開催 ヨーゼフ・ボイス展(ギャラリー・ワタリ) 5 絵画のアナグラム(横浜市民ギャラリー) 芸大系のニューウェーブ作家による展覧会 豊姿華彩(神奈川県民ホールギャラリー) 出品作家: 倉重光則、戸谷成雄、北沢一白ほか 8 第1回浜松野外美術館: 野外空間への展望(中田昌砂) 10 ビデオ・アート展(ビデオ・ギャラリー・SCAN) 11 第16回今日の作家展、感情と構成(横浜市民ギャラリー) 企画: 藤枝英雄 作家: 山田正亮、中上清、須賀昭初、榎岸芳郎ほか A+Today '80 絵画の問題展: ロマンティックなものを越えて(西武美術館) 企画: 藤枝英雄 作家: 原野登恵子、根岸芳郎、依田寿久 第1回ハラ・アニュアル: 80年代への展望(原美術館) 出品作家: 榎倉康二、川俣正、真板雅文、堀浩哉、沖啓介ほか 6 [海外] 第39回ヴェネツィア・ビエンナーレ この年から建築部門が正式に創設される 出品作家: 榎倉康二、小清水漸、若林寛	4 大塚町立現代美術センター開館 7 日本文化デザイン会議 10 ビデオ・ギャラリー-SCAN開設 11 東京国立近代美術館常設展示室で絵画修復事件 12 土方定一死去 この年、第1回日本グラフィック展とオブジェTOKYO展開催(その後二つが統合、アーバ(ナート)展へ)	1980 1 'ルナミ・ジャーナル、(ルナミ画廊) 創刊 3 'アール・ヴェイヴァン(西武美術館) 創刊 4 宇佐美圭司 '絵画論: 誰(この)の権様、(筑摩書房) ウンベルト・エーコ / 池上眞彦訳 '記号論、 ;(岩波書店) <i>Umberto Eco, A Theory of Semiotics, 1976</i> 廣松渉 '近代の超克-論、昭和思想への一断想、(朝日出版社) 5 '宮川淳著作集、全3巻、美術出版社より刊行開始 7 'BRUTUS: (マガジハウス) 創刊 9 'イメージフォーラム、創刊 '美術手帖: 9月号 'ガラス透写、 榎倉康二によるヴェネツィア・ビエンナーレのレポートでニュー・ペインティング系の作品が紹介される 10 '朝日ジャーナル: 10月1日臨時増刊号 中原佑介 '美術団体離れた新世代が台頭するモザイク的状況、掲載	4 ザトルル死去 山岸淳子 '日出る処の天子、'LaLa、で連載開始 5 光州事件 7 モスクワオリンピック開催 ソ連のアフガニスタン侵攻に反して日本を含めた約50ヶ国がボイコットする 9 ボーランドで独立自主管理労働組合 '護衛、結成 イラン・イラク戦争勃発(88年まで) 12 ジョージ・レイン射殺される マクルーハン死去
1981	2 New Painted Relief vol.1: 物体としての絵画(Gアートギャラリー) 企画: 荻野裕政 3 HAPPY ART展(村松画廊) Bゼミ学生を中心としたグループ展 マチス展(東京国立近代美術館) 4 New Painted Relief vol.2: 情景のエンリケリチュルにむけて(Gアートギャラリー) 企画: 荻野裕政 5 平塚地帯、' 彫象と空間(画廊パレルゴン) 企画: 藤井雅美 協力: 北澤憲昭、松浦寿夫 6 クロード・ヴィアラ展(鎌倉画廊) 8 第1回平行芸術展(小原流会館) 企画: 峯村敏明 以降、継続的に開催 9 ギルバート・アンド・ジョージ展(かんらん舎) 現代美術の動向 1890年代その鳴鳳と光世、(東京都美術館) 10 New Air Generation(神奈川県民ホールギャラリー) 企画: 荻野裕政、関口敦仁 芸大とBゼミのjoint exhibition 11 第2回ハラアニュアル展(原美術館) 出品作家: 岡崎乾二郎、戸谷成雄ほか 様式展(神奈川県民ホールギャラリー) 出品作家: 阿部守、遠藤利克、井川愷夫、加茂博、戸谷成雄ほか 第17回今日の作家展、壁(横浜市民ギャラリー) 企画: 秋田由利 作家: 川俣正、井川愷夫、荻野裕政、柏原えつむほか 12 1980年代、現代美術の転換期(東京国立近代美術館) 表現の布置展(横浜市民ギャラリー) 企画: 田園勝、藤井雅美	2 画廊パレルゴン開館(神田) 開廊企画展として、倉重光則、吉田秀樹の個展を行う 4 毎月画廊開館 伊奈ギャラリー開廊 鎌倉画廊開廊 多摩美術大学芸術学科創設 5 ストライプハウス美術館開館 7 高山市立近代美術館開館 8 軽井沢高輪美術館開館 後にセゾン現代美術館に改称 10 渋谷区立松濤美術館開館 ギャラリー4開廊(赤坂)	1981 1 '美術手帖: 1月号 '80年代美術: 動き出すニュー・ウェイヴ、 藤枝英雄、峯村敏明、早見堯、那賀裕子・貞原ほか 4 'みづゑ: 4月号 'アンリ・マ蒂斯、 中原佑介、堀浩哉ほか 6 '構造: (構造出版部) 創刊	1 田中康夫 'なんとなく、クリスタル、(河出書房新社) ロナルド・レーガン、アメリカ大統領に就任 3 神戸ポートアイランド博覧会(神戸ポートピア'81)開催 4 スペースシャトル「コロビタ」打ち上げ成功 10 バイオニアグラマーディスクの日本向けの民生用機LD-1000を発売(2009年、再生機の製造を中止) 12 ボーランドで戒厳令布告
	1 [海外] ニュー・ス・ピリット・イン・ペインティング(王立美術アカデミー、ロンドン) 企画: ニック・セロー、クリスト・ヨアキミダス 4 フェストクンスト: 1936年以降の現代美術(ケルン) 5 ジュリアン・シュナーベル展(レガ・キヤスター) 企画: メアリー・ブーン画廊 10 パロック81(パリス市立近代美術館) 企画: カトリーヌ・ミレー	7 [海外] リチャード・セラ(傾いた箱)、マンハッタン公園に設置 89年に政府により撤去		
1982	1 箱装する繪画(画廊パレルゴン) シリーズ展として33年間で継続的に行われる 物体から映像へ / 映像から物体へ(Gアートギャラリー) 出品作家: 加茂博、池ヶ谷肇、吉田秀樹 FOCUS'82: 絵画展 Part1企画: 藤枝英雄、Part2企画: 早見堯 トニー・クラッグ展(かんらん舎) 2 今日のイギリス美術(東京都美術館) 4 group'no.1: 経緯と10の神々(村松画廊) 出品作家: 山倉研志、前本彰子、松屋永規、荒瀬兼敬 5 現代美術の最前線(画廊パレルゴン) 企画: 藤井雅美 ニュー・ウェイヴ系作家40余名を8週間にもわたって編集 6 橋尾忠則新作展(関天子画廊) 8 かたぢへ、かたぢから(村松画廊) 企画: 千葉成夫 出品作家: 山倉研志、前本彰子、熊谷優子ほか YES ART 余りある表現展(ギャラリー・白) 企画: 石原友晴、山部幸司、福田新之助 9 ART and / or CRAFT: USA & JAPAN: 日本アート・クラフト展 橋本 いま、あす、(MR0ホール) 出品作家: 草間彌生、彦坂尚嘉、田窪政治ほか Scamble Sky 1(スタジオ4FR00F) 出品作家: 八木板力、玉置仁、ムラカミ・ヤシヒロほか 10 現代美術からの啓示: 行為と創造(ラフォーレミュージアム原宿) パフォーミング・ダンサーレム、ダニエル・ビュランほか 自在と自制的の空間(代々木アートギャラリー) 企画: たにあらた 出品作家: 高見沢文雄、和田守弘、関口敦仁ほか アート・ナウ '82(兵庫県立近代美術館) 出品作家: 朝比奈浩人、橋本ほか 11 フランク・ステラ、ワーキング・ドローイング 1956-1982(北九州市立美術館) フジヤガマシヤ(京都市立芸術大学ギャラリー-東京芸大会館) 石原知明、中原浩夫、関口敦仁ほか東西の作家が参加 第18回今日の作家展: NOVEMBER STEPS(横浜市民ギャラリー) 企画: 東野芳明 出品: 海老塚純一、吉澤美善、橋尾忠則ほか 12 前本彰子 '吉澤美善展: 女の子は水でできた身体(ギャラリーK) 企画: 秋田由利 大竹伸郎展(ギャラリー・ワタリ)	1 アネライケダギャラリー開廊(東京) ラフォーレミュージアム開設 4 かたぢ: あーと1開廊 Studio 4開廊 玉置仁、内倉ひとみ、吉川隆一郎による共同運営企画 8 第3回日本グラフィック展で日野野亮が受賞受賞 12 美術館連合協議会発足 山中信夫死去 この年、瀬村輝彦、安西水丸らによる'へたくま、'絵画・イラストレーションが流行	1982 2 'on the beach、創刊 名古屋のトリムマガジン 編集: 鈴木敬春ほか 4 'みづゑ、季刊になる 8 'BRUTUS: 8月1日号 '愛おしき'実用品'としての現代美術、 10 '美術手帖: 10月号 'ドクメンタ7、80年代を担うアーティストたち、 ジャン・ボードリヤール / 今村仁司、塚原史訳 '象徴交換と死、(筑摩書房) <i>Jean Baudrillard, L'échange symbolique et la mort, 1975</i> 12 'BRUTUS: 12月1日号 注目のニュー・ペインターとして、大竹伸郎を紹介	4 フォークランド紛争 6 東北新幹線開業 日本による東アジア侵略の記述をめぐり '歴史教科書、が内外で問題化 7 映画『ブレッドランナー』、日本公開 11 上越新幹線開業 12 映画 'E.T. 日本公開

1991	<p>3 Xデパートメント：脱領域の現代美術(伊勢丹美術館) 出品作家：関口敦仁、タナカリユキ、日比野克彦</p> <p>4 アバノヴィッチ展：記憶 沈黙 いのち(セゾン美術館)</p> <p>90年代のアートシーン：ネオモダニズムの4作家(なんばCITY・シティホール) 出品作家：宮島達男、森村泰昌、グムタイグほか</p> <p>アラウストラ -1955-1990(川村記念美術館)</p> <p>5 ソーンズ・オブ・ラブ：日本の現代美術(東高現代美術館) 笠原恵美子、遠藤利克、荒牧子、コンプレッソ・プラスティコほか</p> <p>第1回アートラボ企画展(TEPA) 出品作家：コンプレッソ・プラスティコ、中原浩大、福田美蘭</p> <p>10 構造と記憶 戸谷成雄・遠藤利克・菊持和夫展：木による作品を中心として(東京都美術館)</p> <p>11 荒川淳作の芸術展：見る者がうたわれる展(東京国立近代美術館)</p> <p>第28回今日の作家展：史としての現在(横浜市民ギャラリー) 企画：北澤憲昭 作家：諏訪真樹、中上浩、小山穂大郎ほか</p>	<p>1 『20世紀末：朝まで生討論会』(コバヤシ画廊) 6人の作家と6人の批評家による公開討論</p> <p>4 京都造形芸術大学開校</p> <p>6 アート・マネジメント 講座開講(慶應義塾大学)</p> <p>8 レントゲン藝術研究所開館</p> <p>10 クリスト(アンブレラ・プロジェクト)(茨城県常陸太田市)</p> <p>11 丸亀市雅楽館第一現代美術館開館</p>	1991	<p>2 『美術手帖』2月号「コラポレーティヴ・アート：共同制作美術の時代へ」(ティーム・スピリット)：！</p> <p>永井均「魂 に対する態度」(勁草書房)</p> <p>4 『批評空間』第1期(福武書店) 創刊、編集委員 柄谷行人、浅田彰</p> <p>中原佑介展「90年代美術100のち」中原佑介＋INAキ・ギャラリー、(INAX出版)</p> <p>5 『コンテンポラリー・アーティストズ・タイムズ』(スカッドア)創刊</p> <p>6 榎木野衣「シミュレーション・イズム」(ハウスミュージックと活用芸術)(洋泉社)</p> <p>7 『STUDIO VOICE』6月号「ART&WAR：後攻するコンテンポラリー・アート」</p> <p>10 『美術手帖』10月号「絵画の現在：契になる日本のアーティストPart 1」</p> <p>71年代後半からの絵画の動向を連載、68年代美術を振り返り</p> <p>11 大澤真幸「資本主義のパラドクス：構内幻想」(新曜社)</p>	<p>1 湾岸戦争勃発 自衛隊初の海外派遣</p> <p>3 東京都庁新庁舎落成(新宿副都心)</p> <p>12 ソビエト連邦崩壊</p> <p>この年、バブル崩壊</p>
1992	<p>1 書と絵画との熱き時代：1945-1969(〇美術館)</p> <p>2 宇佐美圭司回顧展：世界の構成を語り直そう(セゾン美術館)</p> <p>9 Anomaly(レントゲン藝術研究所) 企画：榎木野衣 出品作家：中原浩大、村上隆、ヤノベケンジ、伊藤ガビン</p> <p>現代美術への視点：形象のはざまに(東京国立近代美術館)</p> <p>第28回今日の作家展：現代性への問いかけ ある様々な企て(横浜市民ギャラリー) 企画：小倉正史、矢口龍夫、山梨俊夫</p> <p>6 [海外]ドクメンタ9(カッセル) ディレクター：ヤン・フォート 出品作家：川俣正、舟越桂、長沢英俊ほか</p>	<p>3 第1回国際コンテンポラリー・アートフェア(NICAF)開催</p> <p>4 東北芸術工科大学開学</p> <p>7 直島コンテンポラリー・ミュージアム開館</p> <p>この年、アーバネイト#1開館(PARCO)、</p> <p>第1回アート・アーティスト・オーディション開催(ソニー・ミュージックエンタテインメント)</p> <p>7 [海外] フランシス・ベーコン死去</p>	1992	<p>2 『Inter communication』(NTT出版)創刊</p> <p>3 『美術手帖』3月号「ポップ/ネオ・ポップ」</p> <p>5 『朝日ジャーナル』休刊</p> <p>7 『WAVE』33号「アーティスト・ファイル」 森村泰昌、中原浩大、藤本由紀夫、村上隆、丸山直文ほか</p> <p>6 『みづゑ』休刊</p> <p>7 『すばる』7月号 榎木野衣「Suicidal Tendencies」連載開始</p> <p>9 菅原敦夫「やさしい美術：モダンとポストモダン」(読売新聞社)</p> <p>遠藤利克「Epitaph」墓碑誌：エロスへの衝動、水と水への転生、そして物質と精神」(五柳書院)</p> <p>審村敬明編著「平野芸術展の60年代：1961-1991」(美術出版社)</p> <p>たにあらた「回転する対象：現代美術/脱ポストモダンの視角」(現代企画室)</p>	<p>1 阪死魂魂、脳死を「人の死」と認める最終音申</p> <p>4 ポスニア・ヘルツェゴビナ紛争勃発</p> <p>この年、CERNによりWWW(ワールド・ワイド・ウェブ)の正式発表</p> <p>インターネットの接続台数が100万台を超え、ネットサーフィンという言葉が生まれる</p>
1993	<p>4 1970年・画仏「バリ」：シュポール・ノショナル・ファス展(埼玉県立近代美術館)</p> <p>6 アンゼラム・キーマー展：メランコリア 知の翼(セゾン美術館)</p> <p>8 新世代への視点：10画廊からの発言 コバヤシ画廊、ギャラリーなつか、ルナミ画廊、ギャラリー山口ほか10画廊が参加</p> <p>パラル・ヴィジョン：20世紀美術とアウトサイダー・アート展(世田谷美術館)</p> <p>11 東京瑠・中村錦平：メタセラミックスで現在をみる(石川県立美術館) スパイラル・ガーデン、芦屋市立美術館博物館にも巡回</p> <p>第20回今日の作家展：蓄えたい現実(横浜市民ギャラリー) 企画：遠坂雄理子 作家：中八川シヅカ、中村敦人、柳孝典</p> <p>12 「かたまり彫刻」とは何か、20世紀・非視覚主義への反叛の始まり(エス・バクOHARA) 企画：審村敬明 作家：多和田圭三、黒川弘毅ほか</p>	<p>4 成安造形大学開学</p> <p>12 シンポジウム「クレメント・グリーンバウの批評理論をめぐって」(東京都美術館講堂)</p> <p>司会：藤枝晃雄 パネリスト：クレメント・グリーンバウ、谷川道、川田樹子ほか</p>	1993	<p>1 市原研太郎「ガムハルト・リヒター・ペインティング・オブ・シヤイン」(ワコウ・ワークス・オブ・アート)</p> <p>2 第1回美術手帖芸術評論、伊藤制子「水のイメージとしての音楽：武満禮論」</p> <p>3 『美術手帖』3月号「引用の快楽：1960年代以降の芸術表現に見る」</p> <p>『三彩』休刊</p> <p>藤井雅実、澤野雅樹編著「人はなぜゲームするのか：電脳空間のフィロソフィア」(洋泉社)</p> <p>10 安斎重男、藤田達美「現代美術トーク：安斎重男×藤田達美対談集」(美術出版社)</p>	<p>5 日本プロサッカーのリーグ戦としてJリーグ開幕</p> <p>9 小林よしのり「ゴマニズム宣言」(扶桑社)刊行開始</p> <p>8 角川書店社長、角川春樹逮捕</p> <p>11 マーストリヒト条約により欧州連合(EU)が発足</p>
1994	<p>1 かたちとまなざしのゆえ：美術と工芸をめぐって(かわき21BMM市民文化ギャラリー) 出品作家：橋本真之、上原美智子、河口龍夫</p> <p>2 戦後日本の前衛美術(横浜美術館) アメリカに巡回</p> <p>戸谷成雄、山 森 村(町立久万美術館)</p> <p>3 VOCA展'94：現代美術の展望 新しい平面の作家たち(上野の森美術館) 第1回目、以降毎年開催</p> <p>4 水戸アニュアル'94：開放系 Open system(水戸芸術館現代美術センター)</p>	<p>1 灰塚アースワークプロジェクト発足</p> <p>4 長岡造形大学開学</p> <p>奈良町現代美術館開館</p> <p>9 財団法人地域創造設立</p> <p>10 ファーレ立川竣工 監修：北川フラム</p> <p>11 サントリーミュージアム天保山開館</p> <p>この年、昭和40年会結成、スタジオ食堂活動開始</p> <p>5 [海外] クレメント・グリーンバウ死去</p>	1994	<p>3 『美術手帖』3月号「キュレーターの仕事」</p> <p>5 『10+1』(INAX出版)創刊</p> <p>11 ロザリンド・E. クラウス / 小西信之訳「オリジナリティと反復：ロザリンド・クラウス美術評論集」(リブレポート)</p> <p><i>Rosalind E.Krauss: The originality of the avant-garde and other noodlist myths</i></p>	<p>7 金日成死去</p> <p>8 ジュニア東京開店</p> <p>9 関西国際空港開港</p> <p>10 大江健三郎、ノーベル賞受賞</p>
1995	<p>3 第30回今日の作家展：洋上の宇宙・アジア太平洋の現代アート(横浜市民ギャラリー)</p> <p>4 水戸アニュアル'95：絵画考 書と物差し(水戸芸術館現代美術センター)</p> <p>戦後文化の軌跡：1945-1995(目黒区美術館) 全国3館の美術館を巡回</p> <p>6 寝ることのアレゴリー - 1995 絵画 彫刻の現在(セゾン美術館)</p> <p>9 鹿野登孝子 1966-1995(東京国立近代美術館)</p> <p>11 現代美術への視点：絵画、唯一なもの(東京国立近代美術館)</p> <p>11 [海外] 第1回光州ビエンナーレ</p>	<p>1 東京都写真美術館、正式に総合開館</p> <p>3 東京都現代美術館開館</p> <p>5 川村記念美術館開館</p> <p>6 レントゲン・ストラウム開館 レントゲン藝術研究所より名称変更、青山に移転</p> <p>10 豊永天命弘転地開館 荒川雄作＋マドリン・ギンズによるテーマパーク 豊彦康二死去</p> <p>11 古橋隆二、エイズによる敗血症のため死去</p> <p>豊田市美術館開館</p> <p>この年、宮島達男の「時の驟生：楳の木プロジェクト」がスタート</p>	1995	<p>1 『批評空間』第2期臨時増刊号「モダニズムのハード・コア：現代美術批評の地平」</p> <p>6 スラヴォイ・ジジック / 鈴木晶訳「斜めから見る：大衆文化を巡ってラカン理論へ」(青土社)</p> <p><i>Slavoj Žižek: Looking Awry, 1992</i></p> <p>7 『美術手帖』7月号「快楽絵画：描く人と見る人の心がひとつになる美しい新世代ペインティング！」</p>	<p>1 阪神・淡路大震災</p> <p>3 雷田下鉄サン事件</p> <p>7 PHSサービス開始</p> <p>10 チレアニム 新世紀エヴァンゲリオン、放映開始</p> <p>11 Windows95発表、PCとインターネットの普及につながる</p> <p>70年代に広がったポケベルの解約が、この年から増加、2007年にNTTコムサービス停止</p>

[凡例]

・本年表は、「現場」研究会特別編シンポジウム「80年代におけるアヴァンギャルド系現代美術 画廊パレルゴンを中心として」の参考資料として作成された。作成の狙いはシンポジウムのコンセプトに準じ、絵画・彫刻権柄の時代と言われ80年代史観に対しアヴァンギャルドの動向を浮かび上げらせ、歴史を複線的に捉えらるきっかけをつくらせることにある。

・アヴァンギャルドの動向を捉える指標のひとつとして、画廊パレルゴンとその周辺の活動(いわゆるニューウェイブ系)に焦点を当てた。画廊パレルゴンに関連する事項はゴシック体で示してある。また以上の方針から地理的にも焦点を絞り、東京のアートシーンに関連する事項を多めに選択した。

・現象の萌芽や余波を観測するため、80年代の前後5年を含む75年から95年までのスパンを設定した。この時間軸の設定により、70年代後半からはじまる絵画・彫刻権柄の激戦を捉えるほか、95年の「鹿野登孝子 1986-1995」、「寝ることのアレゴリー」など、時代を象徴する展覧会の反映を試みた。

・事項は「美術」、「言説」、「社会・政治・経済」に分類し、各フィールドの相互作用、あるいは美術を相対化する視点が見出せるよう工夫を施した。さらに美術系の項目を「美術(展覧会)」と「美術(出来事、他)」の2つに分け、美術の「現場」の最もものものひとつとして展覧会の歴史をメインに置いた。

年表作成：中島水緒

*年表作成にあたり、次の方々から貴重なご意見や資料を頂きました。
石澤康之、北澤憲昭、暮沢剛己、黒田結花、小林ひとみ、澁谷朋恵、高橋麻衣子、沼下桂子、藤井雅実(敬称略、五十音順)

本年表作成にあたり、項目についての原資料及び以下の文献を参考にした。

『美術手帖』、『美術手帖年鑑』(美術出版社)
『日本美術年鑑』(朝日新聞社)
『金沢21世紀美術館研究紀要「アール」』(金沢21世紀美術館)
『現代美術の動向』1) 日経80年代前報の現況(京都国際芸術センター、1987年)
『THE EIGHTIES』80年代の美術(コバヤシ画廊、1990年)
今日の作家展1964-1989編集委員会、横浜市民ギャラリー一輪「今日の作家展1964-1989」(横浜市民ギャラリー、1990年)
『水戸アニュアル'95：絵画考 書と物差し』(水戸芸術館現代美術センター、1995年)
『20世紀年表』(毎日新聞社、1997年)
松岡正剛監修「増補 情報史の歴史」(NTT出版、2001年)
暮沢剛己編「現代美術を知るリテラチュア」(フィルムアート社、2002年)
関西現代版画史編集委員会編「関西現代版画史」(美学出版、2007年)
多木浩二・藤枝晃雄監修「日本近現代美術史事典」(東京書館、2007年)
『工芸、シンポジウム記録集編集委員会「美術史の余白に：工芸・アール・現代美術」』(美学出版、2008年)

補記：96年以降の言説

96年以降に刊行された書籍・雑誌より、本年表に関連性の深いものを取り上げた。選定については、本年表に記された言説のその後の展開を示すもの、80年代美術と文化全般を総括するものに絞った。

[美術]
単行書
藤枝晃雄「現代美術の不満」(東信堂、1996年2月)
川俣正「アートレス：マイノリティとしての現代美術」(フィルムアート社、2001年5月)
松井みどり「アート：芸術」が終わった後の「アート」(朝日出版社、2002年2月)
北澤憲昭「アヴァンギャルド以後の工芸：「工芸的なるもの」をもとめて」(美学出版、2003年3月)
審村敬明「彫刻の呼び声」(水声社、2005年12月)
クレメント・グリーンバウ/藤枝晃雄訳「グリーンバウ批評選集」(勁草書房、2005年4月)
松浦寿夫・岡崎乾二郎「絵画の準備を1」(増補改訂版)。(朝日出版社、2005年12月)
千葉成夫「ま生の日本美術史」(臨文社、2006年9月)

定期刊行物(雑誌特集記事、学芸誌)
『特集=解体神話：1980年代とはなんだったのか?』『武蔵野美術』No.100、1996年4月
近藤幸夫「ニューウェイブ、再考：1980年代前半の東京における現代美術の動向についての一考察」『芸術学』(三田芸術学会)No.1、1997年7月

その他の刊行物
坂上しのぶ編「シリウス80年代考1」(galerie16、2008年)

[思想及び文化論全般]
単行書
大塚英志「『また』の精神史：1980年代論」(講談社、2004年2月)
藤安たけひら文化論「ポスト戦後」としての1980年代(慶應義塾大学出版会、2006年6月)
宮沢真夫「東京大学「80年代地下文化論」講座」(白夜書房、2006年7月)
岩崎聡、上野千鶴子、北田曉大、小森隆一、成田龍一編著「戦後日本スタディーズ(3)80-90年代」(紀伊國屋書店、2008年12月)

雑誌記事特集
『特集=ポストモダンとはなんだったのか：80年代論』『現代思想』Vol.29、No. 14、2001年11月